

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：13801
 研究種目：基盤研究(C) (一般)
 研究期間：2016～2019
 課題番号：16K01994
 研究課題名(和文) ベトナム人介護士帰国者の就労システム構築に関する研究：EPA・技能実習を中心に

 研究課題名(英文) Job-seeking system for Vietnamese Care Worker Returnees: EPA and Technical Intern Trainees

 研究代表者
 比留間 洋一 (HIRUMA, Yoichi)

 静岡大学・国際連携推進機構・特任准教授

 研究者番号：30388219
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では経済連携協定(EPA)に基づき来日したEPAベトナム人介護福祉士、特に帰国者に関する基礎データを収集した。具体的には、彼(女)らの社会経済的背景や日本での経験、この協定が及ぼしうるベトナムの高齢化への影響等について、ベトナムの文化人類学(研究代表者)と介護教育学(分担者)から接近した。4年間の研究期間中に6本の論文、12本の学会等発表を行い、EPA後も留学生・技能実習を通して、ベトナム人介護人材受入を拡大している日本社会へ貢献した。主たる成果は、EPA交渉とその影響に関する研究、国家試験合格の日本語以外の要因に関する研究、帰国理由と帰国後の職業選択に影響した要因に関する研究である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1) 研究成果の学術的意義：民族誌的調査方法の採用、及び、ベトナムの文化人類学や地域研究の研究蓄積と介護福祉学の研究蓄積を踏まえた分析・考察によって、従来の先行研究(EPAインドネシア・フィリピン介護士に関する)には見られなかったデータや視点を提供した。
 2) 研究成果の社会的意義：ベトナム人介護人材受入れが拡大した結果、2019年度の介護留学生、介護技能実習生の国籍別人数ではベトナム人が最多を占めた。その一方で、国家試験合格後の帰国者の多さや、介護留学生の国家試験合格の難しさ等が課題として認識されるようになった。本研究はそれらの課題解決に資することができる基礎データや視点を提供した。

研究成果の概要(英文)：This research project sought to improve the understanding of EPA Vietnamese care workers who entered Japan under the Japan-Vietnam Economic Partnership Agreement (JVEPA). It includes aspects such as the kind of experiences these workers had and the impact the agreement had on the aging population of Vietnam. This study was based on Vietnamese cultural anthropology (the Principal Investigator's field) and caregiving education (the Co-Investigator's field). We published more than six articles and made 12 presentations. We presented the following findings: first, the background and impact of the JVEPA negotiations; second, factors, other than Japanese language competency, impacting success in the national examination; and finally, factors influencing the participants' return to Vietnam and their career choices after returning. Our work has contributed to Japanese society that has come to accept the increasing number of Vietnamese care workers entering the country.

研究分野：文化人類学、ベトナム地域研究

キーワード：外国人介護人材 EPAベトナム人介護福祉士 帰国移住 保健医療人材の国際移動 頭脳循環 ベトナムの高齢化 ベトナム看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

看護師の国際移住に関する研究の到達点、ミレイユ・キングマ『国境を超えて移住する看護師たち』(原著 2006 年、翻訳 2008 年)によれば「研究者はますます移住者の帰国問題に目を向けているが、帰国者のデータ(その動機や特徴、帰国パターン、国内労働市場への参入、そして帰国者が与える影響の可能性などのデータ)は極めて少ない」(上掲書 232 頁)。この研究状況は研究開始当初も変わっていなかった。また、EPA により来日したインドネシア、フィリピン介護人材研究については多くのデータが収集されてきたが、後発(2014 年受入れ開始)のベトナムについては乏しい状況であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、日本・ベトナム間の保健医療人材の「頭脳循環」、つまり日本の経済連携協定(EPA)・技能実習制度・留学生制度によって急増するベトナム人介護士の課題(帰国後の介護の仕事の不在)と、ベトナムの急速な高齢化の課題(農村中間層の高齢者福祉の不在)を、日本での介護経験を活かした「帰国後の就労モデル事業の開発」を通じて同時に解決を図る方策を検討するために、(上記の下線部のような)帰国者に関する幅広いデータを収集、分析することである。

3. 研究の方法

第一に、キーインフォーマントを対象とした質的分析として、EPA ベトナム人介護福祉士候補者第 1 陣(パイオニア的存在)のうち本研究プロジェクトへの参加に説明の上、合意した者 4 名を対象として民族誌的調査を実施した。4 年間以上をかけてラポールを築いていながら、ベトナムの実家訪問など個人的領域にも踏み込んだインタビューを毎年何度か行なった。第二に、その質的分析を補完するために、平野裕子氏(長崎大学教授)との共同により、帰国者全体(第 1 陣から第 5 陣)を対象としたアンケート(オンライン及び配票)調査を実施した。第三に、上記質的量的調査から得られた資料(ミクロ)を分析するために、文献調査や、EPA 交渉の関係者(マクロ)、ベトナム看護協会やベトナムの介護人材養成・送り出し機関、日本の受入れ施設など(メゾ)でのインタビューを行なった。

4. 研究成果

(1) JVEPA 交渉とその影響(比留間 2020 出版予定)

先行したインドネシア、フィリピンに対して、後発のベトナム EPA 受け入れスキームは 1 年間の渡日前研修と日本語能力検定試験 N3 合格を課す等の特徴をもつことになった。その背景に何かがあったのかについて、国会データベースに基づきインドネシア、フィリピン看護師の国家試験合格率の低さを政府が問題視したこと、関係者のインタビュー等に基づきベトナム側の交渉団がどのように対応したか、またその中に 1992 年から 2010 年にわたり、AHP ネットワークスという日本の NPO 団体が、ベトナム人看護師を日本で養成した経験に基づく知見が活用されたことを明らかにした。また、このような JVEPA スキームが、誰がベトナム人 EPA 候補者として選抜されるか、国家試験合格に対する高いモチベーションの醸成などに影響を与えた可能性がある」と論じた。

(2) 国家試験の合格に影響する要因

従来の研究では、ベトナム人 EPA 介護福祉士候補者の日本語能力の高さが国家試験の合格率の高さと直結するような解釈がされてきた。それらに対して本研究では、ベトナム人自身の自己

分析を通して、日本語能力(JLPT)のみに偏重した解釈を超えた、幅広い要因を明らかにした。具体的には、合格の主な要因として、漢字をふくむ日本語能力、看護の知識(EPA候補者は看護卒業者である)、異文化適応過程の心理的防衛機制(ベトナム人は有能、優秀だと思われたい)、1年間の渡日前研修で身についた学習習慣という知見が得られた。

(3) 合格者の帰国理由とその背景(Hiruma et al. 2020 刊行予定)

合格後の帰国者が少なくない

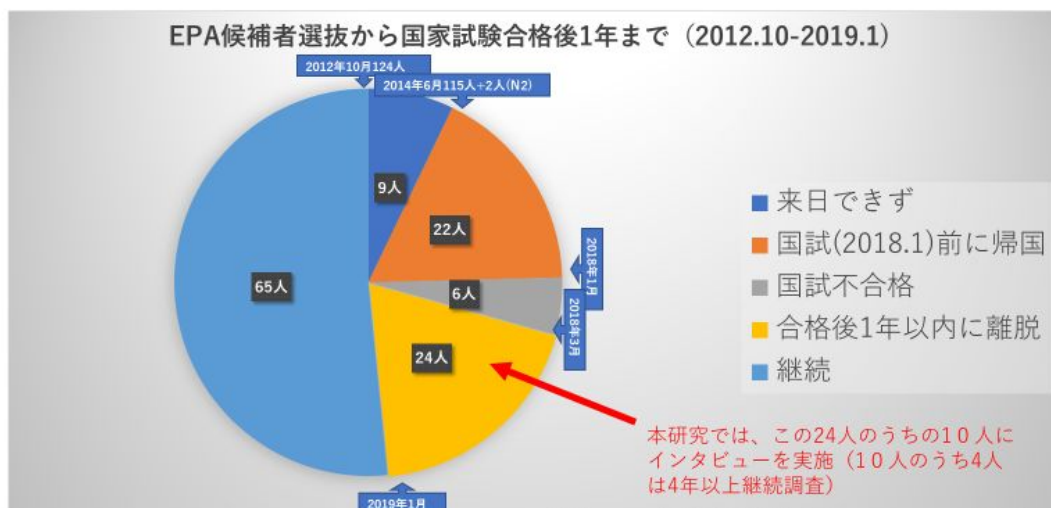
第一陣の軌跡(選抜から2019年1月現在まで)は凡そ次の通りである(図1)。第一陣介護福祉士候補者は、2012年8月に公募が通知され、2012年10月に124名が選抜された(人数は厚労省調べ。以下同様)。選抜後、124名はベトナムで1年間の集団研修を受けた。その結果、N3に合格した115名と、すでにN2を取得していた2名(集団研修免除)の計117名が2014年6月に訪日した。

訪日後、2か月間の集団研修(日本語約140時間、社会文化適応約140時間:日本での社会文化研修の主な内容は介護技術の演習)を受け、2014年8月に日本各地の施設にそれぞれ配属された。その後、2018年1月の国家試験までに、22名(全体の18.8%)が国家試験前にEPAの介護業務を離れ、その大多数がベトナムに帰国し、一部の者は別の在留資格で日本に続けて滞在した。

国家試験では95名の受験者のうち89名が合格(合格率93.7%)し、「候補者」(研修生のような立場)から正式な介護の専門職である介護福祉士となった。不合格者6名のうち4名は帰国し、2名は翌年(2019年1月)に再受験(再受験の主な条件は、合格ラインの半分以上の点数と、施設との合意である)するために日本に残った。国家試験合格者は3年に1回の更新により日本で働き続けることが可能である。また帰国後も、介護の雇用先が見つければEPA介護福祉士として再来日することができる。

合格後2019年1月(国家試験から1年後)までに24名がEPAの雇用施設を離れ、後述するように大多数は帰国し、一部の者は別の在留資格で日本に滞在している。

図1 ベトナム人EPA介護福祉士候補者1期生126名の「軌跡」の内訳(2019年1月)



出所: EPA看護師介護福祉士ネットワークの調査データ

量的質的調査からみた帰国理由：日本の介護の仕事は帰国理由ではない

表 1. Reasons for returning to Vietnam (multiple choice answers)

Reasons for returning to Vietnam	4 (agree)	3	2	1 (disagree)
Because I was not satisfied with my work in Japan	0	11.7	29.4	58.8
Because I could save money after I worked for a certain number of years in Japan	0	17.6	41.1	41.1
Because I wish to care of my family in Vietnam	52.9	29.4	11.7	5.8
Because I want to spend my married life in Vietnam	23.5	47	17.6	11.7
Because I wish to develop my career in Vietnam	11.7	52.9	23.5	11.7
Because I felt tired after work when I was in Japan	5.8	23.5	29.4	41.1

表1の通り、ベトナムへの帰国理由に関しては、「家族のケアをしたいから」(82.3%)、「結婚して一緒に住みたいから」(70.5%)を選択した者が多く、反対に、「日本の仕事に不満だから」、「日本で働くのに疲れたから」には同意しない者(同意しないという回答がそれぞれ88.2%、70.5%)が多かった。

上記のアンケート調査に加え、質的調査(インタビュー)の結果、主な帰国理由について次の3点の知見が得られた。1つ目に、日本での介護業務は主な帰国理由ではないこと。むしろ男女ともにほぼ全員が、日本の介護業務を肯定した。2つ目に、主な帰国理由は、結婚と家族(親)のケアであった。その背景としてベトナムのジェンダー役割に加え、看護卒業者だからこそ家族のケアを担う責任を引き受けた、という側面があること。3つ目に、ベトナムで介護人材養成をおこなう教員という仕事を得られたこと。その背景として専門職ネットワークの中で就職したこと、及び、彼女たちがベトナムの将来にとって日本の介護の知識や技術が必要になる、との認識をもっていることである。特に帰国後の就職にとって看護卒業者の専門職ネットワークが鍵となるという観点が、先行研究との違いである。

今後の展望は、日本のベトナム人介護福祉士の介護福祉士としての能力の向上(介護の知識、スキル、態度等)とその背景、及び、それらの能力のベトナム高齢者ケアにおける活用とその背景についての検討が必要である。

<引用文献>

比留間洋一「JVEPA交渉の経緯とその背景」平野裕子・米野みちよ編『外国人看護師』東京大学出版会,2020年度出版予定

Hiruma Yoichi, Amano Yukari, Hirano Yuko “Return migration of Vietnamese nursing graduates: Trajectories of the first batch of EPA care workers in Japan” (in press), Edited by Hirano Yuko, *ERIA Research Project Report 2019: The Skill Circulation of Oral Care and Swallowing Function Rehabilitation: Developing a Career Path for Returned Healthcare Migrants from Japan to Asian Countries*, 2020年刊行予定

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 天野ゆかり、比留間洋一	4. 巻 20(4)
2. 論文標題 EPAベトナム人介護福祉士候補者から見た日本の介護 - 看護人材が介護を学ぶとき -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 81-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 比留間洋一	4. 巻 第15巻第1号
2. 論文標題 ベトナム高齢者法の特徴とその背景 - 政令との比較を中心に -	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 静岡県立大学国際関係学部紀要『国際関係・比較文化研究』	6. 最初と最後の頁 143-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 天野ゆかり・比留間洋一	4. 巻 30号
2. 論文標題 ベトナム高齢者施策の進捗状況：ダナン市の事例	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 静岡県立大学短期大学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 比留間洋一・ファム ドウック ムック・天野ゆかり	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 ベトナムの看護・介護人材の現状と課題：看護協会の立場から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 47-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 比留間洋一・天野ゆかり	4. 巻 21(7)
2. 論文標題 なぜベトナム人介護福祉士はEPAを離れたのか? : 来日前の背景から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 90-96
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件)

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 ベトナムの高齢者ケア政策・制度の動向 : 1995年以降を中心に
3. 学会等名 東南アジア学会第258回中部例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 ベトナムの地域高齢者ケア制度をめぐる動向とその資料 : 看護・介護論から
3. 学会等名 第38回百越の会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 天野ゆかり (講演者) 比留間洋一
2. 発表標題 介護福祉士養成施設における留学生受け入れの課題 EPA介護福祉士のインタビューから得られた示唆
3. 学会等名 第25回日本介護福祉教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 アジアから見た日本式KAIGO～日本に期待すること～
3. 学会等名 第74回全国老人福祉施設大会（福島大会）（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 天野ゆかり（講演者） 比留間洋一
2. 発表標題 EPA介護福祉士の国家試験合格率に関する分析 - ベトナム人合格者の語りから
3. 学会等名 介護福祉教育学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 比留間洋一
2. 発表標題 EPAベトナム人介護職はなぜ帰国したのか
3. 学会等名 国際シンポジウム「日本の介護・アジアのKaigo」（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 宮崎里司、西郡仁朗、上村初美、野村愛編集（天野ゆかり、第4章「外国人介護人材の定着の可能性と求められる役割 ベトナム人看護学生に対するアンケート結果をふまえて」を執筆担当、掲載ページpp.256-266）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 くろしお出版	5. 総ページ数 291
3. 書名 『外国人看護・介護人材とサステナビリティ 持続可能な移民社会と言語政策』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	天野 ゆかり (AMANO Yukari) (60469484)	静岡県立大学短期大学部・短期大学部・講師 (43807)	